

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・ステップ棟の室内は扉で3つの部屋に分けることができるので、利用者の様子や活動内容に合わせて、部屋を使い分けしている。また、ログハウスを設置したことで、個別の空間が必要な利用者にも対応できるようになった。 ・園庭があり、子どもたちが外で安全に遊ぶことも可能である。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			・20人の定員に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を6人配置しており、職員の配置基準を満たしている。 ・次年度は、新たに中学生の受け入れを行うため、新たに職員1名を配置する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	・安全に配慮し、バリアフリー化をしているところと、必要に応じ段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげているところと、両方を大切にしている。 ・利用者の身体の成長につれ、設備の大きさが合わなくなっているところがある。今後、子どもの身体の大きさに合わせて設備の改善を検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			・週に1回の職員会議で、必要に応じて業務改善についての話し合いの場を設けている。職員から意見を出しやすい雰囲気作りが心がけている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・年に1回、自己評価のアンケートを行い、アンケート内容について職員で話し合い、改善策を導き出している。その結果について、保護者には茶話会等で周知するとともに、書面でも周知をしている。また、ホームページで公開もしている。 ・意見箱の設置を行ったが、意見箱に意見が出されることはなかった。 ・アンケートを行うことで、改めて保護者からの意見を聞くことができる。次年度は、中期にも一度簡単なアンケートを行い、保護者が意見を出せる機会を設ける予定である。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・2019年度に第三者評価を実施した。その際に指導していただいたことを、業務改善につなげてきた。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・資質向上計画にて、職員一人一人が自分の目標をもって研修に参加していけるよう働きかけしている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・年に一度アセスメントを行い、利用者や保護者のニーズを共有し、支援計画作成につなげている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・事業所内で統一したアセスメントツールを使用している。今年度、アセスメント内容についての見直しを行った。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・会議の中で、活動プログラムの立案を行っている。いろんな職員が、それぞれの得意分野を活かして意見を出し合い、様々な体験ができるよう検討しあっている。また、活動後には振り返りを行い、次の活動に活かせるようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・季節ごとに、伝統行事も意識しながら活動を工夫している。また、季節に合わせた自然体験を取り入れ、利用者それぞれの発達に合わせた配慮をしながら、様々な体験ができるように検討しあっている。 ・毎年同じ活動をするのではなく、その年の利用者の様子や趣向に合わせて、活動を新たに計画するなど、できるだけ柔軟に対応している。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえなし	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・学校休業日には、サービス提供時間を拡大し、午前中の活動が保障できるようにしている。 ・長期休暇には、普段できない事業所外での体験や食事作り、行事などを企画して行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・ひとりひとりの発達や性格、その時の精神的状態等をふまえて、必要な活動を個別で行う時と、少人数で行う時、また集団的に行う時と、それぞれ狙いを定めて計画を作成している。 ・統合保育を行っている恵の実っ子クラブ(学童クラブ)との集団的活動についても、一人一人の状況に応じて計画に取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・支援開始前には、その日の活動内容や配慮が必要な利用者の確認、職員の役割分担などの打ち合わせを必ず行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか			○	・支援終了後は、保護者対応等で職員全員が集まることは難しく、細かな支援の振り返りまではその日のうちに行いにくい。そのため、その日気付いたことを、その日のうちに記録に残しておく様式を作り、その内容を翌日の打ち合わせで共有するようにしている。 ・その日のうちに共有すべき緊急の内容については、時間を調整して共有できるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・その日の支援の内容や利用者の様子を記録に残している。記録をもとに、モニタリングなどの支援の評価や子どもの捉えなどにつなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半年に1回以上のモニタリングを行い、支援内容や子どもの様子について検討し合い、支援計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			・ガイドラインの基本活動を組み合わせたものになっている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・担当者会議がある際には、子どもの状況がよくわかっている職員が出席し、情報共有を行っている。会議の内容については、職員間で共有するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			・送迎時に担任の先生と話をするほか、電話や学校訪問等により、学校側と情報共有をしながら、利用者の支援につなげてきた。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				・体制が整っていないため、医療的ケアが必要な子どもの受け入れはしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・就学前に利用していた保育園や事業所の担当職員と情報の引継ぎを行い、円滑な移行ができるように努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか				・これまで対象となる児童がいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			・センター等が主催する研修には参加できるようにしているが、助言等を受ける機会はなかった。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内にある、恵の実っ子クラブ(学童クラブ)の子どもたちと統合保育を行っている。利用者の状況に応じて、日常的に関わり合いながら活動を行う場合と、行事など活動の内容に応じて関わり合いながら活動を行う場合とがある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			・豊川市の放課後等デイサービス共有会議に参加をしていく予定だったが、会議自体の開催がなくなってしまった。共有会議の代表者が協議会へ参加しており、会議の内容について情報共有をしている。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日頃の利用者の様子を、送迎時等に映像などもつかって、できる限り分かりやすく伝えるようにしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいない	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での対応に困っている保護者へは、その都度子どもの表現する行動の意味や子どもの発達的な捉え方などを一緒に考え、対応の仕方の工夫を助言している。 ・保護者に活動参加をしてもらい、子どもと直接かかわる中で、子どもとの関わり方や子どもの理解の仕方について一緒に考えあつていく機会をつくっている。 ・その他、子育てについての学習の場を設けている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・年度の切り替えの際に、説明をするようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談にはできる限り迅速に対応し、助言できるようにしている。気になる内容については、上長に報告し、適切な助言や支援ができるよう連携をとっている。また、職員の方からも声をかけるようにし、保護者の悩みに気づいていけるよう意識している。 ・茶話会を定期的に行い、保護者が悩みを出しやすい機会を作ってきた。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・発達や悩みに合わせて小グループでの茶話会を定期的に行うとともに、ステップ全体での茶話会も実施をした。全体で茶話会を行うことで、いろいろな保護者との交流ができる機会となる一方で、規模が大きくなることで話をしにくくなる保護者の方もいる。また、茶話会への参加自体を負担に感じてしまう保護者の方もおり、保護者の状況に応じて、いろいろなやり方を工夫していく必要がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者評価の設置などの情報を伝えている。相談や苦情の申し入れがあった際は、できるだけ速やかに職員間で話し合いの場を持ち、改善につなげる体制を作っている。 ・苦情になる前の、保護者の意見や相談のひとつひとつを真摯に受け止め、職員間で速やかに情報共有し、検討することを大切に行ってきたが、その結果についての報告を保護者の方全体には行っていなかった。保護者の方からの意見や要望が、事業所全体に関わるような内容の際は、茶話会で報告するほか、メール等を使用して保護者全体に周知するように改善していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとに、活動概要やねらい、計画内容等をお便りやメールで伝えている。お便りの発行が少し遅くなってしまうことがあるので、できるだけ改善していく。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・書類は、鍵のかかる書棚で管理している。職員には、年度初めに守秘義務や書類・個人情報等の管理の仕方について周知している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの意思疎通については、利用者それぞれに合わせてその子の理解のしやすい伝え方の工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮している。 ・統合保育の中では、利用者の尊厳を傷つけないような配慮をしながら本人への必要な支援を行うことの難しさがあり、工夫が必要である。 ・発達のゆっくりなお子さんに対して、その子に合わせた生活の分かりやすさへの工夫を、今後も考えて行くことが必要である。 ・保護者への情報伝達については、口頭だけでなく書面で伝えたり、保護者の様子に合わせて、時間にゆとりをもって個別で丁寧に対応するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・マルシェの行事が、回を重ねるごとに少しずつ地域に開けていっている。利用者もマルシェに参加をすることで、地域の方との交流の場になりつつある。 ・感染症の拡大状況を見ながら、行事に地域の方を少しずつ招待できるようになってきた。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			○	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつではあるが、緊急性の高いものからマニュアル整備や見直しをすすめている。整備が整い次第、職員や保護者に周知していく。
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、一通りの災害に対する訓練を行い、また緊急時の対応訓練についても実施することができた。しかし、訓練の実施について、保護者への報告が不十分であった。次年度についても、計画的に訓練を行い、保護者への報告を行っていく。 	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいない	工夫している点、課題や改善すべき点など
非常時等の 対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・管理者より、虐待防止に関する情報提供や研修を行っている。 次年度は、管理者以外の職員が外部研修に参加できるようにする。 ・今年度より、虐待防止・身体拘束適正化委員会を設置し、運営を開始し始めた。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			・身体拘束になりうる可能性がある場合は、保護者への確認や説明を行い、支援計画に記載するようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、上長で検証と再発防止について話し合うようにしている。また、その内容を記録し、職員間でも共有できるようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場をもち、再発防止に努めている。 ・ヒヤリハットになる前のちょっとした出来事を共有することが大事であると職員間で共有し、その日気づいたことを記録に残して職員間で共有できるようにしている。